

ボウも
マジックに
挑戦し
ようかな



はぐ便り

2025年
3月号
【第118号】



盛岡市家庭教育研修会「はぐ講座」を開催しました！

2月5日(水)に読み聞かせボランティア研修会・家庭教育研修会はぐ講座を開催しました。講師に岩手県立県南青少年の家所長 佐藤敦士先生をお招きし、「くらうん・しゃー」による絵本ライブのほか、読み聞かせや読書の大切さについて教えていただきました。研修会の内容を一部抜粋してご紹介します。



第1部 「くらうん・しゃー」の絵本ライブ

ピエロに扮し、「くらうん・しゃー」として県内各地で子ども向けの絵本ライブを行い活躍されている佐藤先生。この日は見前保育園の園児も参加し、次々と繰り広げられる絵本の読み聞かせや歌、マジックなどを楽しみました。「くらうん・しゃー」さんの愉快的パフォーマンスに子どもたちは大盛り上がり！！参加した大人の皆さんも笑顔があふれていました。

第2部 講話

「楽しい子育てのヒントに！広げていきましょう！お友だちに！地域に！読み聞かせの輪！」

「絵本」って

そもそも誰のもの？



「絵本」には、作家さんの思いがあって、読み聞かせをする私たちはそれを子ども達に伝えていく役割を担っているんじゃないかなと思います。お父さん・お母さんには大人として子どもに関わる者というスタンスで絵本というものを考えてほしいです。絵本は子どものものじゃなくて親子のものだよ、お父さん・お母さん自身のものでもあるんだよ、ということ伝えたいです。

「読書をする子」とは

どういう子？

本を読みなさいと言われて読む子はいません。読書は義務・強制でやるものではないですね。本が楽しいから読むんです。幼少期の小さい時から、本は楽しいものだっていう経験を積み重ねるからこそ、その楽しさが心にしみていきます。

「読み聞かせ」って

誰のため？

「読み聞かせ」は親子のためのもの。読み聞かせの時間は、親子のコミュニケーション、心の交流の時間です。だから、何歳になっても読んであげてください。「もう自分で読めるようになったんだから、自分で読みなさい」ということではないと思うんですよね。子どもは読んでくれている人とのふれあい、交流を求めているんじゃないかなと思います。

「情報メディア」との

関わり方について

判断力が弱く、誘惑に負けてしまう。そういった子どもたちに、スマホなどを勝手に使わせるのは避けましょう。乳幼児期からスマホに子守りをさせて大人が楽をしていると、あとで困ります。中学生になってから「やめなさい」と言っても、中学生は言うことを聞きません。10年後を考えて子育てしましょう。



参加者

の感想



読み聞かせの意義を再認識できました。我が子も大きく「よりました」が、読み聞かせしようと思います。

まずは自分自身がメディア漬けになっていないかを見直し、子どもと本を通してのコミュニケーションをもっと充実させていきたいと思いました。



学用品
全てに記名で
手が疲れ



盛岡市家庭教育情報通信『はぐ便り』2025年3月号
【第118号】令和7年3月7日発行
発行者・問合せ：盛岡市教育委員会 生涯学習課
住所：盛岡市津志田14-37-2 TEL:019-639-9046
E-mail:edu.sgs@city.morioka.iwate.jp

